

## 平成28年度離島漁業再生支援交付金による取組概要

## 1. 集落の状況及び集落協定の概要

都道県名：沖縄県

市町村名：渡名喜村

島名：渡名喜島

協定締結集落名：渡名喜集落

## 2. 協定締結の経緯

自然海岸や珊瑚礁地帯が広がる渡名喜村の海域は、良好な自然環境を有しており、渡名喜村の漁業者にとって貴重な漁場であり、渡名喜村の漁業者がこれらの海域環境を適切に管理し、これを保全するとともに周辺水域の有効性を図ってきた。しかしながら漁業が基幹産業である渡名喜村においても漁業者の減少や高齢化が進んでおり、このまま放置すれば漁業は一層衰退し、水産業・漁村における多面的機能も失われていく懸念がある。このため漁業の基盤となる漁場の保全や利用に関する話合いを通じて種苗放流、漁場監視、サメ駆除やオニヒトデ駆除、新規養殖業への着業、高付加価値化、体験漁業、パヤオ設置の取組等の創意工夫をいかした新たな取組、その取組の継続を下支えするために離島漁業再生支援交付金事業を実施するものとした。

## 3. 取組の内容

## ①漁場の生産力の向上に関する取組状況

## ・種苗放流

資源回復を目的に漁場として効果が低下しているイノー内にシラヒゲウニを放流した



### ・漁場監視

渡名喜島周辺の漁場監視においては、小型漁船等（0 t～2 t未満）で密漁漁船の監視等を行い、又、中層パヤオ及び沈設魚礁においては、大型漁船等を利用し、パヤオ付近で操業している不審船の監視等や流木等漂流物の監視も含めて平成28年10月6日から平成29年3月24日までに23回実施した



### ・サメ駆除（その他）

年々増え続けているサメは、要漁業である一本釣りでの底物魚やひき縄漁業の操業中に漁具に被害を与え、釣り上げてくる漁獲物もサメの食害となり、漁獲量の減少を招き漁家生計にも大きな故障をきたしているため、今年は早めにサメ駆除をするために、平成28年8月8日から平成29年12月11日までにサメ駆除を2回実施し、サメを17匹駆除した。



### ・オニヒトデ駆除

渡名喜島周辺（イノー内）でオニヒトデが毎年多発生している。そのため稚魚の育成場及び水産動物の産卵場である珊瑚が大きな被害を被っている。漁場として低下している水域の資源回復を図るために平成 29 年 2 月 27 日より実施し、オニヒトデを 30 匹駆除した。



### ②漁業の再生に関する実践的な取組状況

#### ・新規養殖業への取組

漁業経営の安定化を図るために、平成 28 年度から県のご指導の下、試験的にシャコ貝養殖業に取り組んでいる。現在は順調に稚貝が成長しており、今年度も地元イベント（となき祭り）や、本場で毎年開催している離島フェアにも、去年好評戴いたシャコ貝の塩辛をさらに味に創意工夫して展示即売した。今年度も養殖カゴは設置せず既存の養殖カゴを利用し、ヒレナシジャコ稚貝をほぼ同様に 1,030 個購入し養殖した。



- ・新規養殖業への取組

漁業者の冬場の漁家経営の安定化を図る上からも、今年度もヒトエグサの養殖に取組、網を 30 枚と老朽化している既存の鉄筋の抜き替え作業を中心に養殖に着手した。



- ・高付加価値化

魚価の価格が安く、セリ市場等で出荷の厳しい雑魚等を地元漁業者から比較的安価で買取り、既存加工施設を利用して水産加工品として付加価値を付け、地元のイベント（となき祭り）や本島の離島フェアへ参加し、水産加工品のアピールをしながら展示即売会を行った。



- ・体験漁業への取組

子供達に体験漁業を通し漁業の楽しさ、厳しさ、自然を理解してもらい知識向上を図るため、地元の小学校5年生から中学3年生の生徒達で追い込み網漁を実施し、たくさんの魚等を獲得し、さらに製造作業まで行った。



#### 4. 取組の成果

- ・ 漁場監視

村が設置したパヤオ付近での違法操業の監視や島の周辺海域で違法操業している漁船の監視を実施した結果、以前は頻繁に不審船が確認されたが最近では減少している。

- ・ その他（サメ駆除）

渡名喜島の西側海域はカツオやマグロハタやマチ類の好漁場である。これまで1本釣りやひき縄漁時の被害が減り漁獲高も増えている。サメを17匹駆除した。

- ・ その他（オニヒトデ駆除）

島周辺海域では、オニヒトデが異常発生しサンゴへの被害が懸念されているため、毎年継続して駆除したことが良い結果となり、オニヒトデ等の駆除の数も減少しているためサンゴの保全を図ることができた。今年は30匹のオニヒトデを駆除しました。

- ・ 新規養殖業への着業

平成28年度はヒレナジャコ稚貝を1030個購入し養殖した。大きくなったヒレナシジャコは、毎年、各種イベントで展示即売した結果、大好評を戴いてさらに味に創意工夫して販売した。

- ・ 種苗放流

漁場として効用が低下しているイノー内にシラヒゲウニを放流し、資源の回復を目指している。